

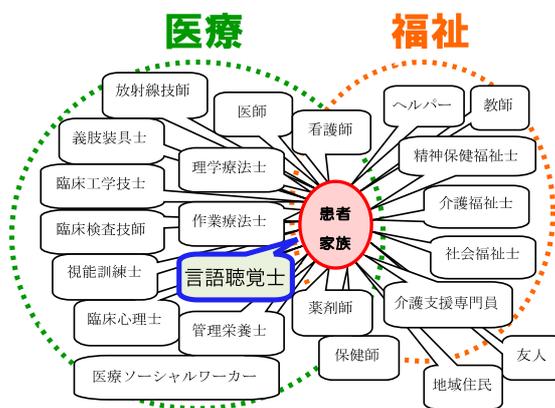
言語聴覚士について紹介します

長野県言語聴覚士会

リハビリテーションとは？

リハビリテーションとは、心身に障害を持った方たちに、障害の軽減を図り、自分らしい生活を実現できるように支援をしていくものです。

リハビリテーションは患者さんやご家族を中心に、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの【医療専門職】、介護福祉士などの【福祉専門職】と連携し、チーム一丸で行われます。



リハビリテーションチーム



言語訓練の様子

言語聴覚士とは？

ことばや聞こえ、食物を口から食べることに障害を持つ方たちのリハビリテーションを行い、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々を担当します。国家資格に制定されたのが1997年とほかの分野よりも比較的新しい領域の職種です。全国には言語聴覚士を必要とする方たちが約600万人いると言われており、まだ十分なリハビリテーションを提供できる言語聴覚士の数は少ない状況にあります。また、高齢化によって言語聴覚士を必要とする方々はますます増加すると考えられており、言語聴覚士へのニーズは今後より一層高まっていくことが予測されます。

言語聴覚士になるためにはどうする？

高校を卒業後、文部科学大臣が指定する大学（3年・4年制短大）、または、厚生労働大臣が指定する言語聴覚士養成所（3年・4年制の専修学校）に入学し、必要な知識と技能を修得して卒業する必要があります。卒業後、年1回開催される国家試験に合格すると、言語聴覚士として働けるようになります。



言語聴覚士になるための流れ



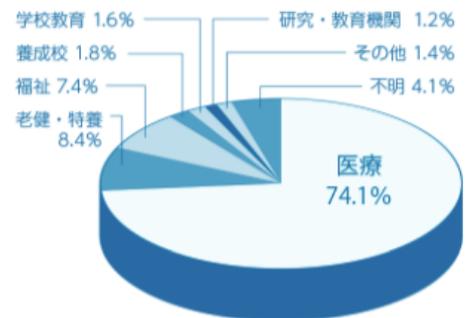
嚙下評価の様子

どんなことを学ぶのか？

養成校では、医学的な知識に加えて、人の心の働きを理解するための心理学や認知科学、ことばや音声のしくみについての言語学や音声学、社会福祉や教育についての科目も学ぶこととなります。多くの専門知識を学ぶため、難しいと思うかもしれませんが、ほとんどが養成校に入学してから新たに学ぶものばかりです。

どんなところで働いている？

医療の領域ではリハビリテーション科や耳鼻咽喉科などがある病院、介護・福祉の領域では老人保健施設や障害者福祉センター、発達・療育の場面では通園施設、学校などがあります。最近では、言語聴覚士が患者さんの自宅に伺う訪問リハビリテーションも盛んになってきており、活躍の場が広がってきています。



言語聴覚士の所属機関

先輩からの声

(安曇野赤十字病院、言語聴覚士のみなさん)

言語聴覚士として病院で働き始めて、いろいろな体験をしてきました。大変で苦しい時もありますが、自分が関わることで、昨日うまく伝えられなかったことが今日は伝えられるようになった姿、「ああ美味しい、入院して初めて口から食べました」と喜ばれる姿を見られることは、本当に嬉しいことです。言語聴覚士はこんな感動を味わえる魅力のある仕事だと思います。

最後に・・・

興味がわいて「言語聴覚士についてもっと知りたい!」と思ったら、検索サイトから『日本言語聴覚士協会』または、『長野県言語聴覚士会』と検索してみてください。みなさんの進路・職業の相談に少しでもお役に立てば幸いです。